

国による歴史教育－自分で情報を集めて考える必要性－

元来、私は歴史にはそれほど興味がなかったし、学校で習ったことを正しいと刷り込まれていて、「愛国主義は戦争につながる」、「自分自身が日本人であることに誇りはない」など思っていた。20 年前に開業した時から時間に余裕ができたため、医学以外に歴史にも興味を持ちいろいろな本を読み始めた。

徳川時代では封建主義の時代で搾取により人々は苦しんでいた。それを、ペリー率いるアメリカの黒船が来たのをきっかけに薩摩や長州の若い下級武士が幕府を倒して新しい政府を作り出したことが明治維新である。私が中学校で習った明治維新である。

しかし、よく調べてみると徳川時代はまれにみる平和が約 200 年超続いた社会で、人々が国からの搾取に苦しんでいたということではなかった。1853 年の「黒舟」という名前も誰が言い出したのだろうか？秀吉の時代から外国船は防水のためにコールタールで黒くぬられていたのが事実である。ほんとうに日本はその来襲に驚愕したのだろうか？幕府は海外の通信使から黒舟の来襲についての情報は入手していたというのが正しいようである。

加えて、日本の歴史を学ぶためには同時代の世界の歴史も見必要がある。例えば、江戸末期の薩摩が武器を密輸入できたのは、アメリカ独立戦争終結による余った武器の処分に日本が利用された可能性も高い。

明治維新以降の富国強兵策に関して、基礎を作ったのは優秀な徳川幕府の官僚であり、薩長の間人ではなかった。欧米列強が日本を植民地化しようとした時、彼ら徳川幕府の官僚たちが素晴らしい外交交渉をしたのである。それがなければ日本は植民地化されていた可能性もある。しかし、このことについて、教科書にはほとんど記載がない。これらの事実を知ってしまうと、「日本維新の会」は明治維新をどのように考えているのか聞きたくなる。

軍部の暴走によりアジア諸国に侵略戦争をし、日本は 1941 年ついにだまし討ちの形で真珠湾を攻撃した。しかし、日本は敗戦濃厚となり、最後には原子爆弾が落とされた。これは、だまし討ちの報復としての正義があり、加えてそれにより早く戦争が終結して多くの日本人の命も助かったというアメリカの説明を事実として習った。しかし、いろいろな書物、資料を総合すると、真珠湾攻撃については、アメリカが欧州の戦争に加担したかったため、日本軍の攻撃の情報を知っていながらわざと真珠湾を攻撃させたとの話が一番信ぴょう性がある。

日本はこの戦争は欧米植民地政策にアジアが協力して対抗したという意味からこの大東亜戦争と命名したが、私たちは太平洋戦争と習った。事後裁判であった東京裁判では、戦争責任はすべて日本側にあり、国民はその後の教育で自虐史観を植え付けられた。そして日米地位協定での決定事項が、アメリカによ

って作られた日本国憲法より上位に位置しているという独立国とは思えない状況になっている。

世界平和など国際問題の解決に寄与すると思われる国際連合の英語は united nations である。誰がこの日本語を“国際”連合と訳したのだろうか？“私もかつてそうだったように今の若者は多くは組織の発祥が第二次大戦の戦勝国の集合ということを知らない。5 大国の拒否権によりウクライナ、ガザの問題などを解決できない。敵国条項にはいっている日本が、多くの金を供与して常任理事国になる必要はあるのだろうか？国際連合を脱退してもよいのではないかと考える。少なくとも若者に国際連合の成り立ちなどは正しく教育すべきだろう。

今回いろいろな書物を読んでみて、歴史は勝者によって作られるというのをつくづく感じている。明治維新からの歴史は薩摩・長州の側からの、第二次世界大戦後の歴史はアメリカの解釈による歴史であり、日本の小・中学校ではそれを正しいと教えられる。批判を覚悟で言えば、これは国による国民への洗脳でありオウム真理教や統一教会と同じ構図であると思う。歴史の評価は異なる視点で見ると 180 度変わる可能性もあるということである。

歴史を、年代を覚える大学入学試験のため記憶の教科としてではなく、出来事の一部でも深く掘り下げてその原因や背景を考え、子供たちで意見を出し合える学習が必要なのではないだろうか？そうすることで徳川時代に存在したような優秀な官僚が生まれ、100年後には横田基地上空問題を含む日米地位協定などが外交交渉により消失することを期待したい。

2024. 03. 19

伊賀幹二 伊賀内科